

伊勢湾貧酸素情報（第3報）

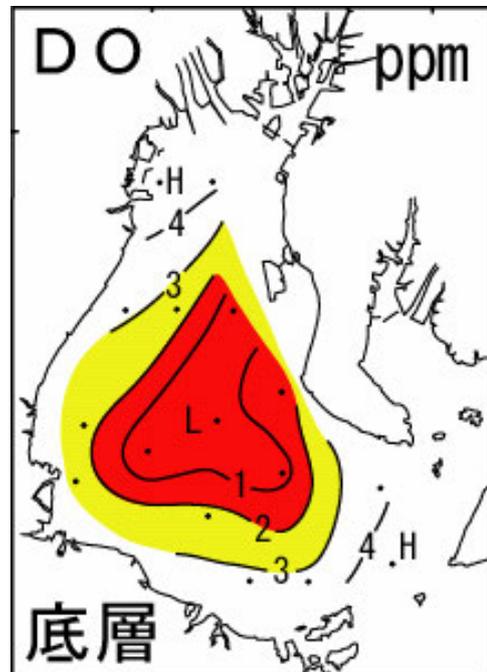
三重県水産研究所 鈴鹿水産研究室

伊勢湾の底層では溶存酸素量が低下していて、湾中央部を中心に 2 ppm以下の貧酸素水塊が形成されている。

8月9日の調査結果

8月9日の調査船「あさま」の定線観測によると、水温は表層で 27.0～28.9℃，10mで 22.8～25.6℃，底層で 19.4～24.6℃の範囲にあり，表層，10mではやや高めから高め，底層では平年よりやや高めとなっていた。塩分は表層では 21.50～29.98，10mで 30.71～32.32，底層で 30.71～33.55の範囲にあり，表層では平年並，10mで平年よりやや高め，底層では平年並となっていた。DO（溶存酸素量）は表層で 5.7～9.4ppm，10mで 3.2～6.7ppm，底層で 0.01～4.8ppmの範囲にあり，表層では平年よりやや低め，10mでは平年よりやや高め，底層では平年よりやや低めであるが，広範囲で 2ppm以下の貧酸素水塊が形成されていて，湾中央部では 1ppm以下となっていた。

表層では高水温で低塩分，底層では高塩分傾向にあるため，上下混合が起こりにくく，貧酸素化が進行しやすい状態にあると考えられ，今後も貧酸素水塊の動向を注視する必要がある。



貧酸素水塊の分布図